

## 26 サメミロン®による慢性胃炎の治療

○ 中島 修、黒川 香（国立熱海病院）

池川哲郎（金沢大学・生命科学）

【目的】慢性胃炎は日本人に最も多発する疾患の1つである。本疾患は慢性の経過を経た後、胃癌に進展するとされている。その原因については諸説があるが、近年、胃粘膜において増殖する *Helicobacter pylori*（以下 Hp）が主要な原因細菌といわれ、その対策が種々行われているが、その有効性は不明である。そこで、深海鮫の肝エキスであるサメミロン®による慢性胃炎への臨床的効果と Hp への影響を検討したので報告する。

【方法】慢性胃炎と診断された成人 22 例に対し、サメミロン®を1日量として6 Cp（スクアレンとして 1,500mg）を3回に分けて内服させた。投与期間は6ヶ月間とし、その前後で、自覚症状の変化、胃内視鏡所見、Hpの定量を検索した。

【成績】1. 吐気、嘔吐、上腹部痛、胃部不快感は全症例で消失し、改善された。食思不振や胸焼けは約 80%の高率で改善された。2. 胃粘膜生検による病理組織像を、Siurala の5段階評価法で判定したところ、その約 65%に評価点数の改善を認めた。3. Hpの陰性化した症例は17例（77.5%）であった。CLOテストもほぼ同様の成績を認め、血清中の抗 Hp 抗体は11例（77.5%）に抗体価の減少を認めた。

【結論】胃炎の治療薬として、従来用いられている薬剤は、①攻撃因子抑制型、②防御因子増強型、③フリーラジカル抑制型に大別される。Hpはフリーラジカルを発生して胃粘膜を障害し胃炎を発症すると考えられている。一方サメミロン®には活性酸素を分解・抑制する機能があることがすでに確認されている。以上の点より考察し、サメミロン®は慢性および急性胃炎の治療に最も適した健康食品といえる。